

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ジョバンニの森		
○保護者評価実施期間	令和8年1月4日		～ 令和8年2月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 19名
○従業員評価実施期間	令和8年1月4日		～ 令和8年2月25日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設の周辺には美術館や公園、チャイルドハウスなどがあり周囲の環境に恵まれている。	周辺に森林がたくさんあり、公園も多く戸外での活動が充実した内容で行うことができる。	今後も継続して周辺の施設を活用し、活動内容の幅を広げていく。
2	多機能型事業所であるため、就労継続支援B型やグループホームの利用者さんと施設内のイベント等を通して交流する機会がある。	児童以降（放課後等デイサービスから就労継続支援B型）の地続きの支援を行うことができる。	今後も継続して就労継続支援B型やグループホームの利用者さんとの関わりの場を設けていく。
3	医療関係や福祉関係の様々な資格保持者が勤務しており、医療と福祉が密接な関係にあるため多方面からの支援が可能。	毎月事業所内での会議を行い、各方面からの意見を出し合い、より良い支援に繋がるよう取り組んでいる。	様々な専門職で意見を出し合い、偏りのない支援を行っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が2階にあるため、身体障害の児童を受け入れることが現時点では難しい。	建物の構造上、設備を変更することは難しいが、安全面を考慮し工夫している。	階段に滑り止めや手すりを設置し、送迎車には福祉車両を導入している。設備の変更は難しいが、身体障害の児童の受け入れも検討していく必要がある。
2	室内の活動スペースに限りがある。	2階にあり室数に限りはあるが、グループごとに室内室外に分けて活動を行ったり、近隣の公共施設を活用している。	状況に合わせて、今後もグループごとに室内室外に分けて活動を行ったり、近隣の公共施設を活用していく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービス ジョパンニの森

公表日 年月日 令和8年2月27日

利用児童数 25名(兄弟児含む)

回収数 19

	チェック項目	回答				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15	4			成長に伴い、体も大きくなっているの で、少し狭く感じる気がする。	活動できるスペースに限りがあるため、近 隣の公共施設を活用し、事業所内の空いて いる部屋を使用するなど場所の確保を行っ ている。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	17			2	充分であると思います。	既定の職員数を配置している。人材配置も 特定の専門職が偏らないよう配置を工夫し ている。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14	5				事業所が2階にある為、手すりや階段に滑 り止めを配置している。 事業所が2階にある為、十分なバリアフ リー化は難しいが今後、より一層のバリア フリー化を促進していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、こどもの活動に合わせた空間になっていると思いますか。	17	1		1	楽しく過ごせている、環境は整ってい る。	
適切 な支 援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	19					特定の専門職に偏らず、経験、知識、技能 を有している職員を配置している。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	19					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されて いると思いますか。	19				担当者会議でいつも細かいところまで話 してくれて、理解してくれている。 先生方がいつも色々工夫されていること が伝わります。	面接や担当者会議を行い、現在の課題や要 望を把握し、半年ごとに計画書の作成を 行っている。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの 「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支 援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切 に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19				子どもの様子に応じて、対応してい く、家族のフォローもあり、心強くサ ポートしてくれています。	
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思 いますか。	19				いろいろな体感をさせてくれていて助か る 7と同様にとても工夫されていると思 います。	平日の集団活動では週毎に内容を変え、 行っている。 児童や保護者からの要望も取り入れてい る。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会 がありますか。	5	6		8		地域の方々も参加できる活動プログラムを 年に何回か行い、地域交流を図っている。 近くのチャイルドハウスも活用し、交流の 場を設けている。
保 護 者 へ の	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	19					利用開始時の契約時には丁寧な説明を心が け、理解、承諾いただいて契約を行って いる。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされ ましたか。	19					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17			2	学ぶ機会があれば参加したい。	年4回保護者会を行い、保護者との意見交 換の場を設けている。 様々な専門家を外部の講師として招き、研 修を行っている。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況に ついて共通理解ができていますか。	18	1				ご利用記録や電話での連絡を用いて日々 の活動の様子をお伝えしている。 家庭での様子も頻りに伺い連絡を取り合っ ている。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	19					家庭での困りごとなど連絡があった場合、 ご利用記録や電話での連絡を用いて連絡を 取り合っている。 定期的に面談を行っている。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	19					

明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	14	4	1	保護者会や講演をしてもらえるので、交流出来てうれしい。	年4回保護者会を行い、保護者との意見交換の場を設け、ピアカウンセリング的アプローチを促進している。 きょうだい児も参加できるような活動プログラムを年に何回か行っている。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	17	1	1		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	17	1	1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	17	1	1		書類は鍵のついていない書庫への保管を徹底しており、鍵の保管場所についても留意している。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18	1			契約時、保護者会の際に適宜マニュアルについて説明を行っている。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19				月に一度避難訓練を行い、様々な災害シチュエーションの避難方法について学ぶ機会を設けている。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16	3			
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	1	1		
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	19			とても安心して通えて、毎日楽しみにしている。 先生や友達と過ごすこととても安心感があるので、親としてとてもありがたい。	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	19			すごく楽しみにしています。日頃もとてもリラックスしていますが、行事でお出かけは更に喜んでいます。	通所が楽しみになるよう様々な活動を行い、活動参加への意欲がわくよう心がけている。
	29	事業所の支援に満足していますか。	19			これからもよろしくお願いします。 満足以上に感謝しています。保護者への支援にとっても助かっています。ありがとうございます。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
放課後等デイサービス ジョバンニの森		令和8年2月27日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		人数やその日の子どもたちの様子に合わせて2階の活動スペース以外を使い場所の確保を工夫している。	グループごとに室内室外にわけて活動を行ったり、近隣の公共施設を活用するなど場所の確保を今後も継続して工夫していく。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		他部署と連携し、協力してもらうこともできる。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	2	2階にある為、建物の構造上バリアフリーではないが手すりやすべり止めを設置し工夫している。	見守り・声掛け・介助は引き続き危険のないように行い、安全に留意する。また、遊びと学習の空間を分かりやすく分ける工夫が必要だと感じる。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		毎日清掃を行い、清潔な環境を保っている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		必要に応じて個別の部屋へ移動する。個別の部屋や空間があり状況に応じて使用する。	・活動のスペースに限りがある為、児童の様子や状況を踏まえ、適切な場所の確保・職員配置を行う必要がある。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9		月に一度会議に時間を設けている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		評価表のアンケートも実施しているが、定期的に保護者会を実施して保護者からの意見を頂き、支援に生かしている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		月に一度職員会議を行い、職員間で話し合いを行っている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9			顧問弁護士、行政書士、税理士等による第三者委員会を開催している。課題及びその内容を分かりやすく広報していく必要がある。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		外部の研修に参加し、知識を身につけて、職員全体での共有を行っている。また事業所内での会議や研修を開催している。	
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9			
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		担当者会議やモニタリング、面談での情報をもとに現在の課題や要望を把握し、半年ごとに放課後等デイサービス計画を作成している。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		毎月の職員会議の際に支援計画案について話し合い、職員間で支援方針の統一をはかり全体で共有している。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		会議に参加できなかった場合も書類や口頭で伝達し伝達し、必ず共有している。会議や保護者面談後の内容も書類で確認できるよう記録のお知らせをしている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9			
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		毎月一人ひとりが案を出して決定し、立案している。利用児童にとってよい行事となるように日頃からアイデアを探すようにしている。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		季節や気候に合わせたプログラムが立案されている。 毎月決まったもの以外は違ったものを入れるように案を出し合っている。 平日に行う活動プログラムでは職員が週毎に異なるミニゲームを準備している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		毎日朝に職員間で確認を行ったり声をかけ合い支援を行っている。 前日に活動の流れを確認し、当日の朝声掛けをし確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		1日の中で気になることなどを話し、休みの職員にも共有できるよう伝達をしている。 気づいた点、反省点は共有している。活動の記録に記入し、来年いかせるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		子どもたちの月々の活動の様子を毎日記録に記入している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		毎月支援会議を行い、計画案について検討している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	9		総則基本活動を偏ることなく複合して実践している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9			
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		支援会議で出た話なども一緒に考え、代表して児発管や管理者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		送迎が遅れる時は早めに学校に連絡している。 トラブルがあった時は保護者にも必ず連絡している。 児童の送迎時、引き渡しの際学校の先生と児童について情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9		児童発達支援事業所や幼稚園などを含めた事前の会議に参加している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9		就労継続支援等に移行する場合は会議に参加している。情報の引き継ぎ等を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	1	研修に参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	2	夏まつりの案内を子どもたちが近所に配布しに行き、交流を図っている。 地域の方も参加できる活動プログラムが年に数回行われている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	9			現時点では参加できていないが、今後可能な限り参加する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	9		利用時には、利用記録を保護者へお渡ししている。また、電話やメッセージも活用して様子のお知らせを頂いている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9		季節ごとに保護者の方へ向けた保護者会を行っている。様々な講師に来ていただき、学びの機会も設けている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		契約時に詳細の説明を行い、了承を得ている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9			

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	保護者から相談があったときは、職員間で共有する。必要な時は面談や助言を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	保護者から相談があったときは必ず児発管に伝え、助言やアドバイス、必要な時は面談をしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	夏祭りなど兄弟児が産できるイベントを設けている。また年に4回の保護者会では保護者の方向士の交流の場を設けている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	毎週、毎月、紙やSNS等で情報等を発信している。 SNSで活動の様子を1週間ごとに知らせている。 フェイスブックを活用している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	外部への持ち出しはしなかったり、保管を決められたところで行っている。 SNSで写真を発信する際、個人情報の管理を徹底している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9		夏祭りやお餅つきなど、事業所内でのイベントに招待している今後も継続して地域の方々と交流していく。。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	職員研修で学ぶ機会を設けている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	職員研修で学ぶ機会を設けている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	全職員で把握し、事業所内で服薬する際は医療職員が対応している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	全職員で把握し昼食やおやつの際は印をつけ、間違えないように対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	全職員で把握し、事業所内で服薬する際は医療職員が対応している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	ヒヤリハットが発生した場合、報告書を作成し、会議の際に伝達や再発防止の話し合いを行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	職員研修で学ぶ機会を設けている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	現時点で身体拘束を行うことはない。		